

## 第2回 みんなでつくるプロジェクト 議事録

### 1. 「第1回みんなでつくるプロジェクト」と「世話人会」における確認事項

#### a. 新しくつくる障害者施設の機能

##### 1) 現在のぷらざこむ2と同じ2つの機能

- ・ 障害者スポーツ文化施設
- ・ めふプラザ作業所（さざんか福祉会）

##### 2) めふプラザ以外の障害者が働く場

##### 3) 障害者どうし、また障害者とそうでない人々との交流の場

（世話人会にて） →理念

目的は、障害者と健常者とが、共に助け合いながら協力しあう社会をめざす。

#### b. 障害者とは？

財団の考え→障害者手帳を持っている人だけでなく、

「生きづらさを感じている」人たち全て →理念

#### c. つくって運営するみなさんとは？

財団の考え→こういった考えに共感する人たち →理念

### 2. 質疑応答

- ・ 理念に基づいて、ハード面を考えてほしい
- ・ この施設だけでなく、福祉コミュニティプラザ全体で、目的を実現することでモデルケースになる。現在、こむ1には支援グループ、ボランティアグループの登録があるが、障害者と健常者が意図的に交流する動きはない。障害者の事故は、交流がないから手を差し伸べることができず起こっている。交流できる場があって気心が知れると、配慮できるようになる。
- ・ 交流だけではなく、何のへだたりもない社会を目指すきっかけになる拠点をめざす。どんなものかはこれからの話し合いで検討する。
- ・ 生きづらい人は、「内なる壁」と「社会の壁」の2つで苦しんでいる。
- ・ 障害の違いによって、障害者どうしに差別感、上下関係がある。

### 3. グループ討議

- 1) 図書スペース、ショートステイがほしい。医療や障害者問題に特化した図書を置いてほしい。利用は不特定多数の人で地域や外に向けての発信をする。

スポーツ、文化を通して、生きがいや居場所を見つけられるような場所にしたい。

障害者が運営し作り上げていかなければ意味がない。中心は障害者。自分たちが運営していくという意識が必要。

ただの貸し館にならないよう教室や講座を開く。障害者は既存の講座に参加しにくい。

2) ホームに入所の子どもたちが放課後や休日に過ごせる場。アシスタント、とし交通の便も必要。

認知症予防にも活用できる場所。

3) コミュニティプラザ全体の交流の場になってほしい。

地域の人が参加できるプログラムがあればよい。

仕事や余暇活動など、生きがいが感じられる場

4) 施設（ハード）はコストが高くなっても、障害者が使いやすい施設（段差がない、文字表示があるなど）をつくり、運営はコストを低くする。

得意なことを生かし、得意なことを学べる場。

将棋の相手、話し相手など、人と人とをマッチングする場。

いつ来ても誰かがいる場所。

障害者がしたいスポーツや文化は何か、ニーズを集めて、受けとめる場が必要。

必要としている人への発信、PRが必要。

イベントは実行委員会形式で参加する。

5) 運営も利用も障害者主体の施設。

したいことに応えられる施設（ハード）を作ってから、ソフト面を充実させる。

どういう施設を希望するか調査してみる。関係団体に要望を出してもらう。

#### 4. アンケート記入

#### 5. 次回の第3回みんなで作るプロジェクト

平成29年2月12日（日）10～12時